

たまねぎレポート【第415号】



令和4年5月26日

阪南青果株式会社

社内報

4月の天候は、全国的に気温は高く、特に北・東日本でかなり高かった。東日本の太平洋側の降水量はかなり多かった。北日本の太平洋側と沖縄・奄美の降水量はかなり少なかった。北日本の日照時間はかなり多かった。北海道は、記録的な高温・少雨・多照であった。5月は全国的に気温の高い日が多い。

気象庁の6～8月の3か月予報では、平均気温は、北・東日本で高い確率50%。西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

6月、北日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

7月、北日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側では平年と同様に晴れの日が多い。東日本の太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。

野菜の概況

建値市場の4月の野菜の販売量は、214,062トン前年比94%(前月比102%)、平均単価はkg¥259前年比117%(前月比102%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg¥250前年比123%。東京市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg¥272前年比116%。名古屋市場の販売量は前年比87%、平均単価はkg¥251前年比118%。大阪本場の販売量は前年比90%、平均単価はkg¥268前年比121%。福岡市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg¥193前年比110%となっている。今月も福岡市場だけが前年比販売増となっている。

建値市場の4月の玉葱の販売量は21,969トンで前年比70%、(前月比94%)、平均単価はkg¥245前年比327%(前月比116%)。販売量が3月(前月)を下回るのは異例である。市場別には多少のバラツキはあるものの総じては、前年比で入荷は大幅減の単価は大幅高となっている。市場別では、札幌市場の販売量は2,681トン前年比81%、平均単価はkg¥194前年比303%。東京市場の販売量は9,173トン前年比67%、平均単価はkg¥274前年比346%。名古屋市場の販売量は5,054トン前年比65%、平均単価はkg¥198前年比275%。大阪本場の販売量は2,831トン前年比64%、平均単価はkg¥279前年比378%。福岡市場の販売量は2,230トン前年比97%、平均単価はkg¥250前年比333%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の4月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が94,908トン前年比10%減、平年(過去5年平均値)比6%減。平均単価はkg¥171前年比20%高、平年比15%高となっている。タマネギが極端な品薄で平年の3倍近くに高騰し、全体価格を押し上げた。北海道産の前倒しで終了、輸入品はコロナ禍の物流混乱で減少。下旬に本格化する佐賀産も、生育遅れに加え雨天で収穫が進まず需給が逼迫した。と報じている。販売量が前年比増の品目は、ネギが前年比19%増、ナスが7%増、ピーマン6%増など4品目。販売量が前年比減の品目はタマネギの前年比32%減を始め、ブロッコリーが16%減、ニンジンが14%減、ジャガイモが12%減など11品目。前年比高となった品目はタマネギがkg¥219で前年比242%高、ハクサイがkg¥64で49%高、キャベツがkg¥91で40%高、ダイコンがkg¥84で31%高など9品目。前年比安の品目は、ネギがkg¥304で前年比28%安、ニンジンがkg¥107・ジャガイモがkg¥212でともに21%安、ナスがkg¥319で15%安など5品目となっている。

東京都中央卸売市場の4月の野菜の入荷量は、118,755トン前年比93%(前月比102%)。平均単価はkg¥272前年比116%(前月比102%)で入荷は前年比減、前月比増。価格は前年比、前月比高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、サトイモが前年比132%、ネギが117%、ナスが111%、など4品目。入荷が前年比減の品目は、タマネギが前年比67%、ニンジンが87%、ナマシイタケが89%、キュウリが91%など11品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥274で前年比346%、ハクサイがkg¥77で187%、キャベツがkg¥106で152%、など10品目。前年比安の品目は、ネギがkg¥309で前年比66%、ニンジンがkg¥127で78%、ナスがkg¥338で81%など5品目となっている。

東京都中央卸売市場の4月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	118,755	92.7	101.5	272	115.6	101.5
た ま ね ぎ	9,173	67.2	100.8	274	345.9	117.6
キ ャ ベ ツ	19,358	97.2	107.2	106	152.4	94.6
は く さ い	5,995	92.4	77.4	77	187.2	96.3
だ い こ ん	9,430	92.4	103.0	96	138.2	88.1
に ん じ ん	7,315	86.6	106.6	127	77.5	117.6
ば れ い し ょ	6,855	91.5	97.8	255	84.6	113.8
レ タ ス	6,870	97.8	97.9	176	132.0	83.0
ト マ ト	6,808	92.7	115.0	370	110.2	98.9
ね ぎ	3,819	117.4	98.2	309	66.2	98.1
か ぼ ち ゃ	1,770	74.6	85.9	243	139.7	134.3
な が い も	917	91.1	105.3	260	89.5	95.9
れ ん こ ん	306	59.3	63.9	918	157.9	134.6
に ん に く	217	92.8	96.0	1,068	72.3	111.5

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の4月の玉葱の入荷量は9,173トン前年比67%(前月比101%)。主力の北海物の入荷は3,924トン前年比64%、占有率は43%前年比2ポイントダウン。佐賀物は3,717トン前年比58%、占有率は4

1%前年比6ポイントダウン。中國物は346トン前年比216%、占有率は4%前年比2ポイントアップ。熊本物は294トン前年比98%、占有率は3%前年比1ポイントアップ。静岡物は282トン前年比145%、占有率は3%前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥274前年比346%(前月比118%)。産地別では、北海物はkg¥247前年比308%。佐賀物はkg¥308前年比403%。中國物はkg¥186前年比184%。熊本物はkg¥289前年比283%。静岡物はkg¥246前年比383%となっている。

5月に入って、府県産地の早生物の生育遅れの回復と、高値反動で相場は頭打ちとなり、相場は弱含みに転じた。主力の佐賀物の入荷は、前年比2桁増となったものの北海物の激減で、月後半の相場は再び品薄高となった。市場関係者の間では、佐賀に続く、兵庫、香川を始め、関東産地の作柄も平年並みか平年作以上との情報で、高値相場は落ち着くと予想していたが、産地の強気に押し返され異常高値が続いている。佐賀物主力の販売だが、JA白石に乾燥不良が発生しているが、JA唐津は手入れが良く好評である。昨今では、佐賀、兵庫物の入荷増に加えて栃木物の入荷が始まり、品不足は改善傾向にある。関東産の栃木、群馬も平年作を上回る作柄が予想され、此の先、市況は軟化に転じる。と予想されている。

5月2日～20日の入荷量は6,365トン前年比95%、平均単価はkg¥248前年比252%。佐賀物と千葉物の入荷は前年比大幅増となったが、北海物は大幅減となっている。産地別では、佐賀物の入荷は3,564トン前年比123%、平均単価はkg¥257前年比254%。北海物は952トン前年比40%、平均単価はkg¥208前年比234%。兵庫物は635トンで前年比102%、平均単価はkg¥270前年比241%。千葉物は344トン前年比155%、平均単価はkg¥237前年比269%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の4月の玉葱販売量は5,054トン前年比65%(前月比88%)で前年比、前月比とも減となっている。主力は北海物で、販売量は2,896トン前年比56%、占有率は51%前年比16ポイントダウン。愛知物は1,802トン前年比74%、占有率は36%前年比5ポイントダウン。静岡物は89トン前年比843%。中国物は77トン前年比256%。総平均単価はkg¥198前年比275%(前月比105%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥143前年比204%。愛知物はkg¥271前年比376%。静岡物はkg¥248前年比340%。中国物はkg¥163前年比192%となっている。

5月に入って、相場は軟調に転じたものの、月半ばからは再び堅調に転じた。地場産地の愛知物が最盛期を迎え、愛知物主力の販売となった。球流れはやや小振り、2L30%、L50%、M20%で売り易く、高値にも拘らず順調な荷動きとなった。仲卸を始め小売り店段階でも、高値が認識されてか、誰も高値に苦情が出なくなった。北海物は事前契約のCA貯蔵品で、販売先も事前に決まっておき、前売りはない。現在も、愛知物の入荷は予想より少なく、高値相場が続いている。総じてはまずまずの動きだが、高過ぎる所為か大口の注文はなく、少なめの入荷で間に合っている。

大阪本場

大阪中央卸売市場本場の4月の玉葱の販売量は、2,831トン前年比64%(前月比98%)で前年比大幅減、前月比減で、3月を下回るのは異常である。総販売量は今月も建値市場の平均値を6ポイントも下回っている。産地別の販売量は、佐賀物が918トン前年比77%、占有率32%で5ポイントアップ。北海物は616トン前年比30%、占有率22%で24%ダウン。長崎物は608トン前年比142%、占有率21%前年比11%アップ。兵庫物は547トン前年比8

5%、占有率20%前年比5%アップ。総平均単価はkg¥279前年比378%（前月比119%）。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥296前年比441%、北海物はkg¥218前年比298%。長崎物はkg¥268前年比337%。兵庫物はkg¥336前年比395%となっている。

5月に入って、府県産地の入荷が増加し相場は値下り傾向となったが、月半ばには転送需要が活発化したこともあり、引き合いが強まり値上がりになり転じた。他方、主力産地の兵庫・佐賀の産地では天候が定まらず、入荷は安定せず卸では、集荷難から産地主導の高値販売値を余儀なくされた。此処に来て、主力の兵庫物の出荷が本格化し入荷増で、引き合いが弱まり荷動きは鈍くなっている。2Lは、業務加工向けや給食向けに動いているが、L・Mの動きが鈍くなっている。愛媛物は、他産地より見劣りするものの割安で動きが良い。

5月2日～20日の販売量は2,146トン前年比112%、平均単価はkg¥239前年比266%。産地別では、兵庫物は1246トン前年比120%、平均単価はkg¥241前年比256%。佐賀物は675トン前年比142%、平均単価はkg¥243前年比286%。大阪物は69トン前年比106%、平均単価はkg¥241前年比287%。北海物は60トン前年比23%、平均単価はkg¥151前年比172%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の4月の玉葱販売量は、2,230トン前年比97%（前月比89%）で、前年比減、前月比大幅減となっている。九州産地が主力となり、占有率は76%を占めた。佐賀物が1107トンで、前年比144%、占有率50%前年比16ポイントアップ。長崎物は473トン前年比96%、占有率21%前年比と同じ。北海物は425トン前年比47%、占有率19%前年比20ポイントダウン。中國物は162トン前年比222%、占有率7%前年比4ポイントアップ。総平均

単価はkg ¥250前年比333%(前月比114%)で前年比、前月比とも大幅高となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg ¥275前年比387%。長崎物はkg ¥267前年比381%。北海物はkg ¥199で前年比249%。中國物はkg ¥143前年比136%となっている。

5月に入り、佐賀物の出荷が最盛期を迎え、佐賀物主力の販売になった。大型連休前に比べると連休後は、荷動きが鈍くなり相場は値下り傾向になると予想されたが、中旬からは引き合いが強まり、荷動き回復で相場は値上がり気配となった。今年は、不良在庫のなく市況の持続安定化を望んでいる。昨今では、表面相場は変わらないが、市場内は弱気配になっている。高値が少なく中値・下値が中心である。然し、新聞、テレビで玉葱の高値報道があり、産地の強気に拍車がかかり、建値に苦労している。安定価格で販売出来る日の近いことを期待している。

5月1日～20日の玉葱販売量は1,286トン前年比100%、平均単価はkg ¥232前年比259%。入荷は前年並み、単価は前年比2.6倍で高値が続いている。

5月26日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷118トン 強い

佐 賀 20kgDB2L ¥6,000～5,500、 L ¥6,500～6,000、 M ¥6,500～6,000。

栃 木 20kgNT2L ¥5,500～5,000、 L ¥6,000～5,800、 M ¥6,000～5,800。

【太田市場】 入荷278トン 弱保合

佐 賀 20kgDB2L ¥5,500～5,000、 L ¥6,000～5,500、 M ¥6,000～5,500。

兵 庫 20kgDB2L ¥5,500～5,300、 L ¥6,000～5,800、 M ¥6,000～5,500。

愛 知 20kgDB2L ¥5,200～5,000、 L ¥5,800～5,600。

栃 木 20kgNT2L ¥4,700～4,500、 L ¥5,500～5,300、 M ¥5,500～5,300。

【名古屋北部市場】 入荷93トン 強い

兵 庫 20kgDB2L ¥ 5,500～5,300、 L ¥ 6,000～5,800、 M ¥ 6,000～5,800。

愛 知 20kgDB2L ¥ 5,000～4,800、 L ¥ 6,000～5,800、 M ¥ 6,000～5,800。

【大阪本場】 入荷176トン 保合

兵 庫 20kgDB2L ¥ 5,000～4,800、 L ¥ 6,000～5,800、 M ¥ 5,500～5,400。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 2,600～2,400、 L ¥ 3,000～2,700、 M ¥ 2,800～2,600。

佐 賀 20kgDB2L ¥ 5,000～ L ¥ 6,000～5,500、 M ¥ 5,500～

佐 賀 10kgDB2L ¥ 2,500～2,300、 L ¥ 2,800～2,600、 M ¥ 2,700～2,500。

大 阪 20kgDB2L ¥ 4,300～4,200、 L ¥ 5,200～5,000、 M ¥ 5,200～5,000。

愛 媛 10kgDBL ¥ 2,400～ M ¥ 2,000～

【福岡市場】 入荷135トン 弱い

佐 賀 20kgDB2L ¥ 5,500～5,000、 L ¥ 6,000～5,000、 M ¥ 6,000～5,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 2,700～2,300、 L ¥ 3,000～2,500、 M ¥ 3,000～2,500。

長 崎 10kgDB2L ¥ 2,700～2,500、 L ¥ 3,000～2,700、 M ¥ 3,000～2,700。

供給(産地)の動き

5月の出回り量は、生育が遅れていた府県産地の佐賀、愛知、兵庫、が最盛期を迎えることで、市況は軟化安定化に向かうと予想されていたが、府県産の出回り増に拘わらず、市場相場は堅調に推移している。何れの産地も未曾有の高値相場を反映して、出荷は前進化の傾向にある。此の先、中晩生も青切り(即売)出荷が多くなり、困い(短期貯蔵)、吊り玉が少なくなる気配である。

府県産地

5月の主力産地である佐賀、兵庫の出荷は順調で、感觸的には前年同期を上回っているが、市場相場は強保合で推移した。通常、6月の西日本は田植の農

繁期を迎え、玉葱出荷は減少傾向となるので、産地関係者の多くは、6月は多少値下がりする場面があっても高値相場が続くと見ている。

佐賀では、一部の生産者が吊り込み作業を始めている。現在、収穫中の圃場は、少雨の影響で球肥大は今ひとつで、やや小振りだが球締り良く品質は良好である。品種はレクスター、七宝早生、ターザン。何れの品種も首が細く、裾物(外品)が少なく歩留まりが良い。中晩生(ターザン種)を栽培している生産者の多くは、月末の降雨後の球肥大を期待して、降雨後に収穫・出荷を予定している向きが多い。例年、田植え前の収穫・出荷は、農作業の繁忙期と重なり、手数が省略出来る囲い(短期貯蔵)や除湿乾燥向けが多くなるが、今年は高値市況を反映して、即売(青切)出荷に転向する生産者が多いと見ている。

兵庫(淡路島)では、遅れていた中晩生の生育は回復歩調で。6月10日前後の収穫になる。現在の出荷は、レクスター、七宝早生が主力。作柄は平年作で。首が細く締まりが良い。栽培面積の多いターザン種は、此の先降雨を待っての収穫となる。生育の遅れは順調に回復し、平年作は確保、適雨に恵まれれば平年作以上になると期待している。唯、昨年と比べると圃場格差が大きい。今年は、市況の異常高値を反映して、例年のコロガシ(短期貯蔵)や、冷蔵貯蔵となる貯蔵適格品種も青切り出荷の方が有利と見て、事前契約以外は即売に転用する可能性が高いと見ている。

北海道産地

4月の高温・少雨・多照で融雪が進み、懸念していた播種・育苗は順調に進んだが、定植後の5月は降雨少なく早魃傾向で、葉枯れ現象が発生し、全道的に雨待ちの状態である。道の5月15日時点の生育と農作業の進捗状況報告では、オホーツク地方は、移植は平年よりやや早く終了。葉数は2.1枚で平年比96%。葉鞘径は3.6mmで平年比92%。生育は平年比1日遅れ。総じては平年並み。

上川地方は、移植は平年比5日前進化、草丈は13.5 cmで平年比96%、葉数は2.1 枚で平年比91%、葉鞘径は4.2 mmで平年比102%。空知地方は、移植は平年比2日早く、草丈は12.9 cm平年比-0.8 cm、葉数1.9 枚平年比-0.2 枚、葉鞘3.4 mm平年比-0.2 mm。生育は平年比やや遅れ。となっているが、今月中に降雨があれば、急速に回復する。

輸入動向

4月の輸入は速報値で、27,380トン前年比155%。前月同様国際的なコロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻など、諸問題の発生で国際的にマーケット価格が値上がりし、輸入量は予想をやや下回ったものの、前年比では大幅増となった。主力の中国が22,705トン前年比134%。ニュージーランドが2,837トン前年比417%。オーストラリアが795トン前年比924%。韓国が719トン、前年はなし。オランダが273トンで前年はなし。となっている。

中国、3月下旬からコロナ感染者の急増に伴い、感染者発生地域では外出禁止や移動規制令のため、ムキ玉工場も稼働が抑制され、出荷が停滞したが、予想以上の着荷となっている。現在の価格は、20kg・C&F、ムキ玉\$12.40に値下がりしている。

ニュージーランド、既報の通り、主産地の不作。コロナ禍の影響で船腹確保が困難で、船積みが大幅に遅れている。現在のオファー価格は、やや値下がりして65~75mmサイズ・20kg・C&F・¥2,100となっている。

6月の市況見通し

5月は、府県産の出回り量が前年並みか前年並み以上に回復したにも拘わらず、市況は堅調を維持した。いずれの産地も、6月に出回る中晩生は前年に比べ減反・減収となるが、現在市況の異常高値からストック量を減らし、前倒し

の出荷に動いている。6月は夏野菜との転換期で玉葱の消費は減少傾向となる。従って6月の品不足は多少緩和されると見ている。然し、今年の玉葱市況は供給不足で産地主導となり、荷受け市場も産地の希望価格に追随の構図となっている。昨今、新聞・テレビで玉葱の高値が報道され、高値事情が消費者にも認識されたとして、産地の強気の追い風になっている。いずれにしても、6月市況は5月に比べ多少の値下がりはあるものの、過去に例のない高値相場が続くものと予想している。(笹野敏和記)